



ホストファミリーをやるにあたって

太田市国際交流協会(太田市企画部交流推進課)

2015.7

基本的な心構えは？

“「会話力」より「気持ち」が大切” “コミュニケーションを楽しむ”

私たちの日本では当たり前とされていることが、ゲスト(受入学生等)からすると生活・文化の違いから、ものの受け取り方、度合が違ったりする場合があります。時には、ホスト、ゲストどちらかにとって、“非常識”、“礼儀知らず”とまで感じられてしまうケースもあるでしょう。

その中で、コミュニケーションを図りながら互いの理解を深め、楽しく過ごすことが重要となります。

- ゲストの人格・文化を尊重し、それを理解しようとする姿勢で接する。
- ゲストに対し、こちらの先入観でのイメージからの期待をしないで、ちょっとした誤解や失敗があっても大丈夫という思いで見守ってあげる。
- こちら(ホスト)のペースで普通に生活する中、相手にしてほしいことは積極的に伝える。また、できること、できないことははっきりと区別しゲストに伝える。
- お互いに何かわからないこと、困ったことがある場合、「こうですよ」、「こうしてみたら」という提案をし、話し合いながら解決する気持ちで接する。
- お互いに言葉が通じず意思の疎通ができないケースもありますが、ゲストは日本の生活・文化を知ることを楽しみにしています。こちらにも楽しめるような気持ちを持って接し、双方が理解し合えるよう努めましょう。困った時は、早めに国際交流協会、通訳ボランティア、並びに他のホストファミリーに相談してみましょう。

ホスト経験者のひとこと

♪ 大切なことは、会話力ではなく、受け入れようという気持ちです。
その情熱が相手を動かし、お互い楽しい時間をすごせました。

まずは自己紹介！

- お互いに自己紹介したあと、お互いにとって一番よい呼び名をまず最初に決めてください。

自己紹介の内容は？ ⇒ 正式な名前、年齢、ニックネームなど

- 留学生と年齢的に差のないホスト夫婦の場合、「お父さん、お母さん、パパ、ママ」と外出先で呼ばれると困ってしまうケースもあります。
- 自宅内で、ゲストが必ず使用するトイレやお風呂などの場所は、事前に案内しておくことも大切です。

コミュニケーションはどうする？

- ゲストによって、日本語を少ししゃべれる方、まったくしゃべれない方、様々だと思います。

少し日本語を理解できるゲストであっても、私たちにとってあたりまえの日常会話は早く感じられ、聞き取ることができず理解できない場合もあります。日本語で会話を望むゲストに話しかける時は、簡単な言葉でゆっくり繰り返してあげてください。

また、英語でコミュニケーションをはかる場合は、逆にこちらが理解できるくらいゆっくり話してもらいましょう。

英語が聞き取れない時は？ ⇒ 「ゆっくり話して(Could you speak more slowly?)」と遠慮せずに言う。

こちらも英語が堪能で、積極的に英語を使う場合も、ゲストが日本語を学習したい場合は、まず相手の意思を確認しましょう。

- 私たち日本人より外国人は、声の調子・表情・身振り・手振りを上手にコミュニケーション手段として利用する傾向があります。もしお互いの言葉を少ししか理解できない場合も、声色やボディラングージによるコミュニケーションを図り、焦らずにゆっくりと意思を伝えてください。特に喜びや感謝の気持ちは、積極的に伝えるよう心掛けましょう。
- ひらがな、カタカナやローマ字を書いたり、辞書や電子辞書を利用しながら会話をするのもよいでしょう。
- 言葉がスムーズに通じない時、途中で話を止めたり、一言も話さずにいると、ゲストが疎外感を感じてしまう場合があります。そのようなときも忍耐と誠意を持って接してあげてください。
- 日本人は、相手を気遣うつもりで言葉や態度があいまいになってしまう場合がありますが、外国人にとっては、理解に苦しむケースが多々あります。必要な時には、はっきりYESかNOで答えてあげましょう。

生活上のルール

- 各家庭それぞれが独自の生活リズム、ルールを持っています。家族にとっては当たり前のことも、ゲストには初めての経験となることもあります。あまり制限すると円滑な交流ができなくなってしまいますが、もし、どうしても「これだけは絶対守ってほしい」いわゆるハウス・ルールがあれば、必要最小限にして事前にゲストに伝えてください。

例えば、

- ・起床、就寝時間

- ・食事の時間

- ・門限

- ・風呂、シャワーの使用方法や順番、時間

- ・洗濯の仕方(洗濯機使用方法、使用時間帯、干し場所)

- ・使用が見込まれる生活用具(タオルや家電製品など)の使用方法、置き場所

～使ったままにならないように、照明やエアコンの消し忘れは注意するなど。

- ・ごみの分別や処理方法

- ・外出時の行先と帰宅時間の連絡

- ささいな習慣の違いなどによりゲストの行動が妙に感じられた場合は、後回しにせず、その都度「どうしたの?」と聞いてみましょう。
- 言ってわからないことは実演してみると理解してもらいやすいでしょう。
 - ・下足禁止の習慣 玄関で戸惑ったら? ⇒ 靴を脱がせて、スリッパなどを使わせる。
 - ・トイレや風呂の使い方(日本の便器や給湯方法は世界でも先進的なものだそうです。)
 - ・ごみの分別(国により大きく違います。) など。
- 衣類等の洗濯は、一緒にしてよいか、分けて自分でするか確認しましょう。
- 必要に応じて家事の手伝いをしてもらうのも立派な交流だと思います。最初から「いいよ」と言うと、言葉どおり「何もしなくてもいい」と解釈する可能性があります。試しに庭の水まき、食事の準備や片付けなどを一緒にしてみたり、頼んでみるのもよいでしょう。
- ゲストにあてがった部屋に入るときは、相手のプライバシーを尊重するうえで、ノックをするか声をかけてから入ります。また、異性のゲストの部屋に入るときは、ドアを開けたままにすることもしましょう。
- ゲストの希望で他のホストファミリー宅を訪問する際は、事前に連絡し相手の都合を確認しましょう。

ホスト経験者のひとこと

♪ ホストマザーが仕事をお持ちで、市役所などの集合場所に迎えに行ったりするのが難しい場合は無理をせずに、お友達や他のホスト、または、ご近所の人に迎えをお願いして、そのお宅で1時間か2時間預かっていただくのもよい方法だと思います。ゲストにとっても、よその家庭を知るよい機会です。

食生活

- 食事は、生活の中で楽しいひとときであり、大切なコミュニケーションの時間でもあります。なるべく家族揃って、その日にあったことなど、ゲストと楽しく語りましょう。なにより楽しく過ごすことがいちばんです。
- 食事のメニューは、いつもどおりのもので特別な記念日でもない限り豪華なものにする必要はありません。日本の一般的な家庭の食生活を文化として教えてあげてください。
- 「いただきます」「ごちそうさま」など食事のあいさつを教えたり、和食の食べ方、マナーや食材について話し、できれば相手の国での様子を聞いてみるのは、お互いの文化を知る良い機会です。
- 食事の量が多いか少ないか、たずねて分量を調節してみましょう。見かけによらず...ということもあります。
- アレルギーや生活習慣病予防など健康上の理由、または、信念や宗教上の理由で食事を制限する人がいます。食事メニューによっては苦手なもの、日本固有の食材で食べるのが不安なものもあります。ゲストにその都度聞いてみてください。また、相手の食の傾向を知るうえでスーパーマーケットと一緒に買い物に行ったり、ファミリーレストランやバイキングなど何でも食べられる店に連れて行くのもよいかもしれません。
- お酒は無理に勧めず、特にゲストが20歳未満の場合、日本国内では飲酒は禁止ですから、絶対に飲酒させないでください。また、喫煙も同様です。

【参考】アメリカの飲酒・喫煙事情

飲酒・・・全ての州が21歳未満のアルコールの購入・所持を禁じていますが、飲酒行為自体の可否については、州によって様々です。例えば、カリフォルニア州では法的な禁止はなく、インディアナ州では全面的に禁止です。

タバコ・・・連邦法が18歳未満への販売を禁じ、ほとんどの州が18歳未満の購入と所持を禁止していますが、喫煙行為自体は、特別な定めのない限り容認されているようです。

ホスト経験者のひとこと

♪ 毎日の食事の世話に疲れた時には、ご近所やホストファミリーの友人宅にお呼ばれに行くというのも楽しいものです。「1週間お預かりはできないけれど、夕食に来ていただいて会話を楽しませてもらい、国際交流のお手伝いができてよかった。」などという感想をよく聞きます。

貴重品

- パスポート、お金、クレジットカードなどの貴重品は、本人が管理するものですが、ホストファミリーとしては、時々持っているか、紛失していないか確認してあげてください。

電話・インターネット

- 電話やインターネットの使用においてトラブルが発生しないようルールを決めておきましょう。
例えば...【海外への通話・長時間の通話】コレクトコール(相手先払い)を利用
クレジットカードまたはワールドプリペイド(先払い)カードを使用
【市内、国内通話】無料にするか、3分10円程度の代金を支払ってもらうか等決めておく。
- インターネットやパソコン使用については、家庭により設置状況が異なりますので、状況に合わせて話し合ってください。使用させる場合は、時間帯や使用時間はどうか、具体的に決めておくことが大切です。

ファミリーデーの過ごし方

- ゲストとの交流を深められる時間ですが、せっかく外国から来たお客様だからといって、一生懸命になる必要はありません。確かに観光名所やテーマパークなどを案内して日本の歴史、文化等を楽しんでもらうのも結構ですが、時間や費用がかかりますからそういつもという訳にはいきません。近所をサイクリングや散策してみたり、庭や公園で軽スポーツ(キャッチボール、サッカー、バドミントン等)を試してみるのもよいのではないのでしょうか。また雨の日などは、料理を作ったり、絵を描いたり、ちょっとした趣味を一緒に楽しむのもよいかと思います。

ホスト経験者のひとこと

♪ ご近所の方や友人の隠れた才能を活用しましょう。

着物の着付け、いけばな、お習字、折り紙などをとても上手に教えてくださる方がいたら少し手伝ってもらって、ファミリーデーのプログラムを豊かにしましょう。またご近所のお年寄りの中にはそば打ち名人、うどん打ちの達人などがいるものですから、そういう方に教えていただいて、ついでにみんなで出来上がったものを楽しく味わうというのもなかなかいいアイデアです。

緊急(病気やけがなど)の際は？

- 家人が万一の時と同様に行動してください。状況に応じて治療がすぐ必要な場合は、病院等へ連れて行ってください。また、軽度の症状(すり傷等)を除き、同時に国際交流協会に連絡してください。(夜間等の場合、指定の緊急連絡先へお願いします。)ゲスト側の責任者(派遣団の団長等)には国際交流協会から連絡します。
- 言葉が通じず症状がわからない場合は、国際交流協会に連絡してください。通訳ボランティアの協力があります。
- 傷病に対する治療費用は、基本的に本人が加入している保険により本人が負担しますので、ホスト並びに国際交流協会は立替払いをしません。

ホスト経験者のひとこと

♪ 帰国の日が近づいてくると、ゲストに何かいいお土産を...と気にかかることですが、空港で面倒なことにならないように、お土産の大きさとスーツケースの容量を考えてやってください。